

令和元年度 地域元気プログラム活用研修⑤ 実施報告

実施日：令和元（2019）年9月27日（金）

6月25日から約3ヶ月の間に全5回で行われた地域元気プログラム活用研修も、最終回を迎えました。受講者の皆さんが、本研修で学んだ成果を生かして、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりに向けてご活躍されることを期待しております！

○演習「プログラムの活用場面を考えよう」

午前は、地域元気プログラムの活用について演習を行いました。はじめに、これまでの研修の内容をふりかえりました。次いで、その内容や受講者それぞれの立場をもとに、どういった学習機会が考えられるか、どのプログラムをどのように展開するか、ワークシートに記入する個人活動に取り組みました。そして、班ごとに想定した場面を発表し合いながら意見交換を行った後、自分とは異なる班の方々のワークシートを見てまわることで、仲間と計画を練り上げていくことの価値に気づくことができたようです。



この演習を通して、地域で活動する際のプログラムの展開イメージをより具体的にもつことができたようで、今後に向けて意欲に満ちた受講生の表情が印象的でした。

○講話・演習「地域課題の実態を踏まえた地域づくり」

午後は、宇都宮大学教育学部教授の陣内雄次先生を講師に迎え、講話・演習を行いました。陣内先生は、宇都宮大学で住まいやまち環境、まちづくりに関する研究をされています。



はじめに、地域社会の現状の分析についてお話がありました。受講者は、人口減少、超高齢社会、超少子化という縮退社会の中で、従来のような成長モデルではない、新しい「支え合いのまちづくり」が必要になることを確認しました。また、「地域づくり」とはどのようなものかを改めて考えた上で、課題を発見し、その本質を見極めることが大切であるというお話もありました。その上で、地域の中にある課題とそれに関連性のある現象を探ることで、課題の本質を考えていくワーク



を班単位で行いました。受講者は、「課題を分析する」重要性に気づきを得ることができたようです。

次に、地域課題を分析しそれに基づいた地域づくりの実践例をご紹介いただきました。前半で学んだことが体現されている事例の数々を目の当たりにして、受講者はそれぞれの立場でどのように活動していくか、さらにイメージを膨らませていたようです。

最後に、「地域の中で役割のある生活を送れるようにする」ことを通して持続可能な地域づくりを目指してほしいと、受講者へのエールもいただきました。

【受講者の感想から】

- 研修を開くことがあると思うので、構成、講話内容、話し方など、参考にしていきたいと思えます。
- 学んだことを再度見直し、復習して、自分の地域課題を洗い出し、取組を始める準備に入ろうと考えています。
- 地域課題は、1人ひとりが当事者意識を持って取り組んでいかななくてはならないと思えます。本研修で学んだ成果を地域でどのように活用するかが、今後の自らの課題です。



閉講式
全5回の研修、お疲れ様でした！



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

